

ルドベキア・ラキニアタ
オオハンゴンソウ (*Rudbeckia laciniata*)

【分類】双子葉植物 合弁花類 キク科 オオハンゴンソウ属 (= ルドベキア属)

【本種と近縁な未判定外来生物】なし

【本種を含む種類名証明書添付生物】オオハンゴンソウ属の全種

【その他の学名】なし

【外国名】Cut-leaf coneflower

【別名・販売名】ルドベキア (オオハンゴンソウ属の総称名)

【輸入・流通形態】明治中期に観賞用に輸入がなされたが、近年は本種の輸入や流通はなかった。現在は、外来生物法により本種の輸入や流通は規制されている。

【原産地と侵入地】北アメリカ原産。日本では全国に分布するが、中部地方以北の寒冷な地域に多く、北海道、福島県、長野県、岐阜県で大群落がみられる。

【形態的特徴】

花：開花期は7～10月(写真1)。他のキク科植物と同様、小さな花(舌状花*と管状花*)が多数集まって頭状花*を形成している。頭状花*のサイズは直径6～10cm。舌状花*は10～14個あり黄色。管状花*は黄緑色(写真3)。



写真1 満開のオオハンゴンソウ
(2007. 8. 25／北海道札幌市北区)

写真2 オオハンゴンソウの
花の付き方(左)
頭状花の構造(右)
(2007. 8. 10／
東京都文京区小石川植物園)

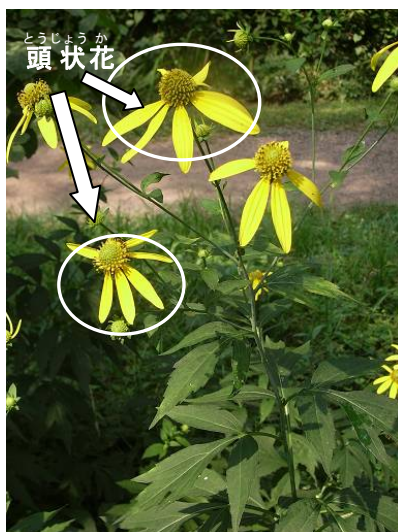


写真3 オオハンゴンソウの
管状花
左：2007. 8. 10／
東京都文京区小石川植物園
右：2009. 8. 23／北海道札幌市
北区

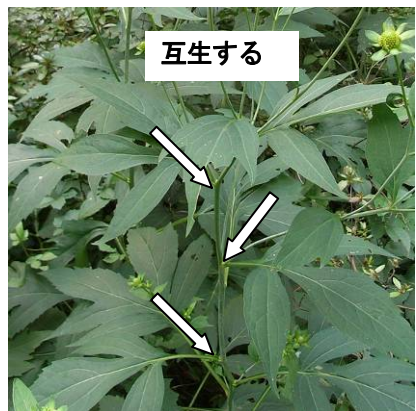


葉：下の方の葉には長い柄があり、深く裂けて5～7枚の裂片に分かれ、それぞれの裂片には粗いが鋭い鋸歯*がある。上の方の葉の柄は短いか無い。葉は互生*する。葉の裏にのみ短い毛がある（写真4、写真5）。

写真4 オオハンゴンソウの生長初期の葉（左）とやや生長が進んだ葉（右）
（2007. 4. 15／東京都目黒区）



写真5 オオハンゴンソウの刈り株から再生した葉（左）と茎葉（右）
（2007. 8. 10／東京都文京区小石川植物園）



茎：地面の中には横に走る地下茎*がある。その地下茎*から地上に伸びた茎は、上部で枝分かれして、高さ1～3mになる。茎にはまばらに短い毛があるか無毛で、ざらつかない（写真6～写真8）。



写真6 高さ約3mに生長したオオハンゴンソウ
（2007. 8. 10／東京都文京区小石川植物園）



写真7 オオハンゴンソウの全体の様子
横にあるのはバネ秤
（2008. 8. 24／栃木県日光市湯元）

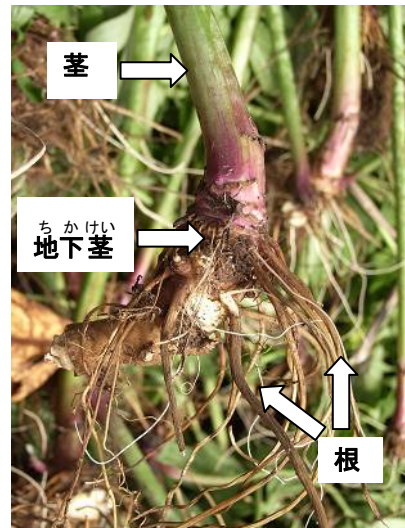


写真8 オオハンゴンソウの地下茎
（2007. 7. 29／北海道利尻町種富湿原）



写真9 林縁に生育するオオハンゴンソウ
(2007. 8. 25／北海道札幌市)



写真10 ヨシ原の中に生育するオオハンゴンソウ
(2008. 8. 23／栃木県日光市湯元)

【生態的特徴】

生活型：陸生の多年草*。

生育環境：冷温帯に分布する。路傍、荒地、畑地、湿原、河川敷などに生育する。肥沃で湿った、ときに湧水のあるところや他の植物が生えている環境にも生育する（写真9、写真10）。

繁殖特性：昆虫類によって受粉される虫媒花。果実はヒマワリ等と同様の^{ちゅうはいか}瘦果*をつける（写真11）。地上部が枯れたり、刈り取られても、残った地下茎*から茎を出して再生する（写真5：左）。

影響：自然公園内の湿原や溪畔林といった自然度の高い環境に侵入・定着し、湿原植物等の希少な在来植物と競合し、駆逐するおそれがある。



写真11 オオハンゴンソウの^{そうか}瘦果
(2007. 9. 16／北海道札幌市)

【オオハンゴンソウ属（ルドベキア属）の特徴】

オオハンゴンソウ属（ルドベキア属）が含まれるキク科の植物は約 1000 属に分類されており、そのうちの約 80 属が日本に分布する。オオハンゴンソウ属は、約 30 種が北アメリカに分布する。多くは多年草*または一年草*である。葉は互生*し、多くは全縁*、ときに深く裂ける。頭状花*は、大きな黄色または基部が褐色の舌状花*と、褐色または紫赤色の管状花*からなる。総苞片*（写真12）は2～4列、^{かしよう}花床*には、管状花*とほぼ同じ長さの^{りんぺんほう}鱗片苞*が生える。瘦果*は4稜形。冠毛*は短いか無い。

オオハンゴンソウ属には、種間交配などで育成された園芸品種も多く、ルドベキアの総称で流通しているものもある。主に花壇、庭植えに利用されるが、ときには切り花として用いられる。数十品種の種子や苗（花のついているものを含む）が日本国内で流通しており、切花の輸入も行われている。

【近縁種・類似種との識別点】

オオハンゴンソウ属の在来種は日本にはない。八重咲きの園芸品種ヤエザキハンゴンソウ（ハナガサギク）*R. laciniata* var. *hortensis*（写真13）も各地で野生化している。



写真12 開花前のオオハンゴンソウの総苞片（2007. 8. 10／東京都文京区小石川植物園）

オオハンゴンソウ属では、本種以外にアラゲハンゴンソウ（キヌガサギク）*R. hirta* var. *pulcherrima*（写真 14）、オオミツバハンゴンソウ（ミツバオオハンゴンソウ）*R. triloba*（写真 15）の野生化が確認されている。

清水（2003）には、以下の検索表が掲載されている。

A. 葉は分裂しない。茎は開出するかたい毛が密にある。花床の鱗片は先が刺状

・・・・・・アラゲハンゴンソウ

A. 葉は分裂する。茎は無毛または粗い毛がまばらにある。花床の鱗片は刺状にならない。

B. 茎葉は羽状に5～7裂。花床の鱗片は上部背面に毛が密にある。・・・・・・オオハンゴンソウ

B. 茎の下部の葉は3裂または羽状に裂ける。花床の鱗片は芒状に尖る。・ミツバオオハンゴンソウ



写真 13 ヤエザキハンゴンソウ（ハナガサギク）*R. laciniata* var. *hortensis*

上部（左）、花（中央）、茎葉（右）（2008. 8. 2／千葉県本埜村吉高排水区域）



写真 14 アラゲハンゴンソウ *R. hirta* var. *pulcherrima*

葉は分裂しない（左）。茎（右上）や蕾（右下）に粗い毛が生える。

（左：2007. 6. 28／東京都江東区木場公園）

（右：2008. 7. 1／東京都江東区木場公園）

写真 15 オオミツバハンゴンソウ

R. triloba

下の方の葉は3つ～羽状に裂ける。

頭状花の直径は2.5-4cmと小さい。

（2007. 9. 23／千葉県茂原市）

オオハンゴンソウ属の植物として、様々な園芸品種も栽培されている（写真 16）。

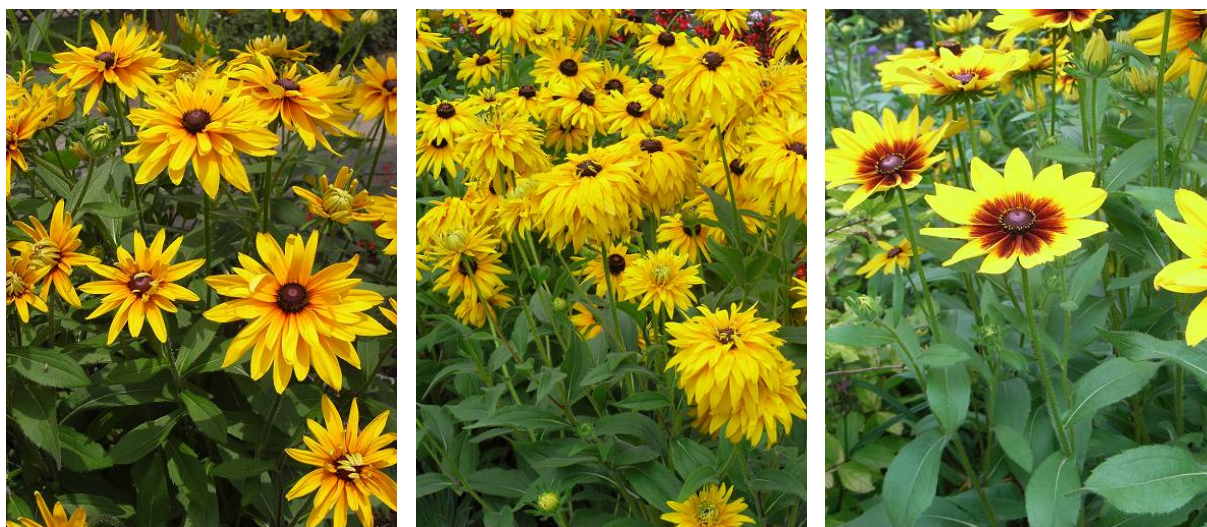


写真 16 ルドベキア属の様々な園芸品種

（左：2008. 7. 1／東京都江東区木場公園、中央と右：2007. 6. 23／名古屋市東山植物園）

オオハンゴンソウ属以外の近縁種・類似種としては、同じ時期に黄色い花を咲かせる外来植物のキクイモ *Helianthus tuberosus*（写真 17）があるが、キクイモの葉は分裂せず、茎に剛毛があつてざらつく。

これらを含めた識別点を表 1 に示す。



写真 16 類似の外来植物のキクイモ *Helianthus tuberosus*

左から、全体の様子（2007. 9. 22／長野県上田市御所千曲川）、
花（2007. 8. 10／東京都文京区小石川植物園）、
茎（2007. 9. 2／神奈川県横浜市こどもの国）、
葉（2007. 9. 2／神奈川県横浜市こどもの国）

表1 オオハンゴンソウの近縁種・類似種の特徴

種 名	花の特徴	葉の特徴
オオハンゴンソウ <i>Rudbeckia laciniata</i> 多年草	 ・開花期は夏～秋 ・直径6～10cm ・舌状花は黄色 ・管状花は黄緑色	 ・葉は羽状に5～7裂 ・茎はざらつかない。
ヤエザキハンゴンソウ (ハナガサギク) <i>Rudbeckia laciniata</i> var. <i>hortensis</i> 多年草	 ・開花期は夏～秋 ・直径6～10cm ・<u>ほとんどが舌状花</u> (八重咲き)で黄色	 ・葉は羽状に5～7裂 ・茎はざらつかない。
アラゲハンゴンソウ (キヌガサギク) <i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i> 多年草	 ・開花期は夏～秋 ・直径6～10cm ・舌状花は黄色 ・<u>管状花は紫黒色</u>	 ・<u>葉は分裂しない。</u> ・<u>茎がざらつく。</u>
オオミツバ ハンゴンソウ <i>Rudbeckia triloba</i> <u>一年草または越年草</u>	 ・開花期は夏～秋 ・<u>直径2.5～4cm</u> ・舌状花は黄色 ・<u>管状花は紫黒色</u>	 ・上の葉は裂けないが、下の葉は3裂する。 ・茎はざらつかない。
キクイモ <i>Helianthus tuberosus</i> 多年草	 ・開花期は夏～秋 ・直径5～10cm ・舌状花は黄色 ・管状花は黄色	 ・<u>葉は分裂しない。</u> ・<u>茎がざらつく。</u>

※全て外来植物または園芸植物

【参考文献】

- (1) 安藤敏夫・小笠原亮・長岡求 (2007) 日本花名鑑④. アボック社.
- (2) 堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇 (1989) 世界有用植物事典. 平凡社.
- (3) JF コードセンター: <http://www.jfcode.jp/index.aspx>
- (4) 農文協編 (2002) 花卉園芸大百科 5 緑化と緑化植物. 農山漁村文化協会.
- (5) 農林水産省植物防疫統計: <http://www.pps.go.jp/database/index.html>
- (6) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1981) 日本の野生植物 草本Ⅲ合弁花類. 平凡社.
- (7) 清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社.
- (8) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.
- (9) 清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七 (2005) 牧草・毒草・雑草図鑑. 畜産技術協会.
- (10) 塚本洋太郎 (1994) 園芸植物大辞典 2 <コンパクト版>. 小学館.
- (11) USDA-NRCS PLANTS Database / Britton, N.L., and A. Brown. (1913) An illustrated flora of the northern United States, Canada and the British Possessions. Vol. 3: 469-473.
- (12) 山岡文彦 (1978) 帰化植物 100 種 最も身近な帰化植物 100 種の渡来、形態、生産地、分布. ニューサイエンス社.